

明石市立天文科学館「紙の宇宙博2015」出展報告

小栗順子 (天文情報センター)

兵庫県明石市。東経135度子午線の真上に建つ明石市立天文科学館は「時と宇宙の博物館」として「時のまち明石」のシンボルにもなっている塔時計をはじめ、明石海峡大橋を眼前に望む展望室、現役では長寿日本一となる投影機などを備える施設です。

2015年6月に開館55周年を迎えた科学館では、特別展「紙の宇宙博2015」(7月18日～9月6日)が開催されました。ペーパークラフトや切り絵作品約100点を通して宇宙開発や天文の世界を紹介する“2015年夏、明石にカミ業師・集結”の展覧会です。主催者の方から「幅広い



特別展示室で切り絵展示。お隣の展示室には、ペーパークラフトの作家さんたち4人による紙製模型(実際の100分の1のサイズ)が展示され“カミ業師が集結”しました。

世代の方々にお楽しみ頂けるように」ということで、日本ならではの和名に因んだ星物語の世界観を描いた「切り絵で見る星物語」をメインに、宇宙探査機や国立天文台をモチーフにした作品のほか、開館55周年のお祝いの思いを込めて新たに制作した「55th Anniversary Akashi Municipal Planetarium」を加え、総計約20点を展覧しました。

8月1日には、運動企画でギャラリートークが開かれ、科学館の学芸員・井上毅さんと対談する形式で、ドームにスライド投影しながら作品の解説や制作エピソードなどお話ししました。作品に託した思いやイメージを“言葉”として伝えるのは、自分の世界や物語の世界観を切り絵で描く事とは手段は異なるものの、同じ「表現」と言うこともあり、準備も意欲的に取り組むことができました。

毎日新聞や神戸新聞など多くのメディアでイベント紹介されたこともあり、会



プラネタリウムで井上毅さんと「ギャラリートーク」。伝統の旧東ドイツ製カール・ツァイス投影機の前で。時折お客様に話し掛けたり、時にはダジャレも!? 会場には、北海道からはるばるお越しの方もいらっしゃいました。

期中はたくさんの来場者がお見えになったとのこと。切り絵を通して少しでも宇宙を身近に感じていただけたのではないかと思います。



「55th Anniversary Akashi Municipal Planetarium」は科学館の広報誌2015年9月号「紙の宇宙博2015」特集号の表紙に。55周年記念ハガキのデザインにも採用していただきました。